

## 5 配偶者等に対する暴力の根絶

対象事業	現状・課題	意見
事業番号 62	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢の方がDVしているという認識がなく、DVをしている場合がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い世代に向けてだけでなく、高齢の方への啓発も行う。</li> </ul>
事業番号 65	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談窓口が十分に知られていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャンペーンを行い、チラシの街頭配布等の方法で周知を行う。</li> <li>・相談窓口が周知できれば、暴行事件等に進展する前に防ぐことができる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性用トイレ等に設置してある啓発カードが分かりにくい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一目で見て分かるようにすべき。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもがおらず働いている夫婦など、地域との関わりが少ない人は、DVに気付かれにくい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DVに気付かれにくい人へのアプローチを考えるべき。</li> </ul>
事業番号 71	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ・不登校が学生時代にあるとその後のキャリアに影響を及ぼす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校児への支援を行っている団体等へ、行政から支援してほしい。</li> </ul>
全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男性が定年後に介護を行う家庭が増えており、介護疲れからDV等へ繋がるおそれがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男性の介護に目を向けたセミナーやイベントを実施してはどうか。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・DV被害を減らすためには行政のみでなく、地域への支援や情報共有が必要ではないか。</li> </ul>